

高浜市まぜこぜの居場所づくり実態調査

むすびえは
設立5周年を
迎えました

5th
anniversary

2026年2月

調査概要（調査デザイン）



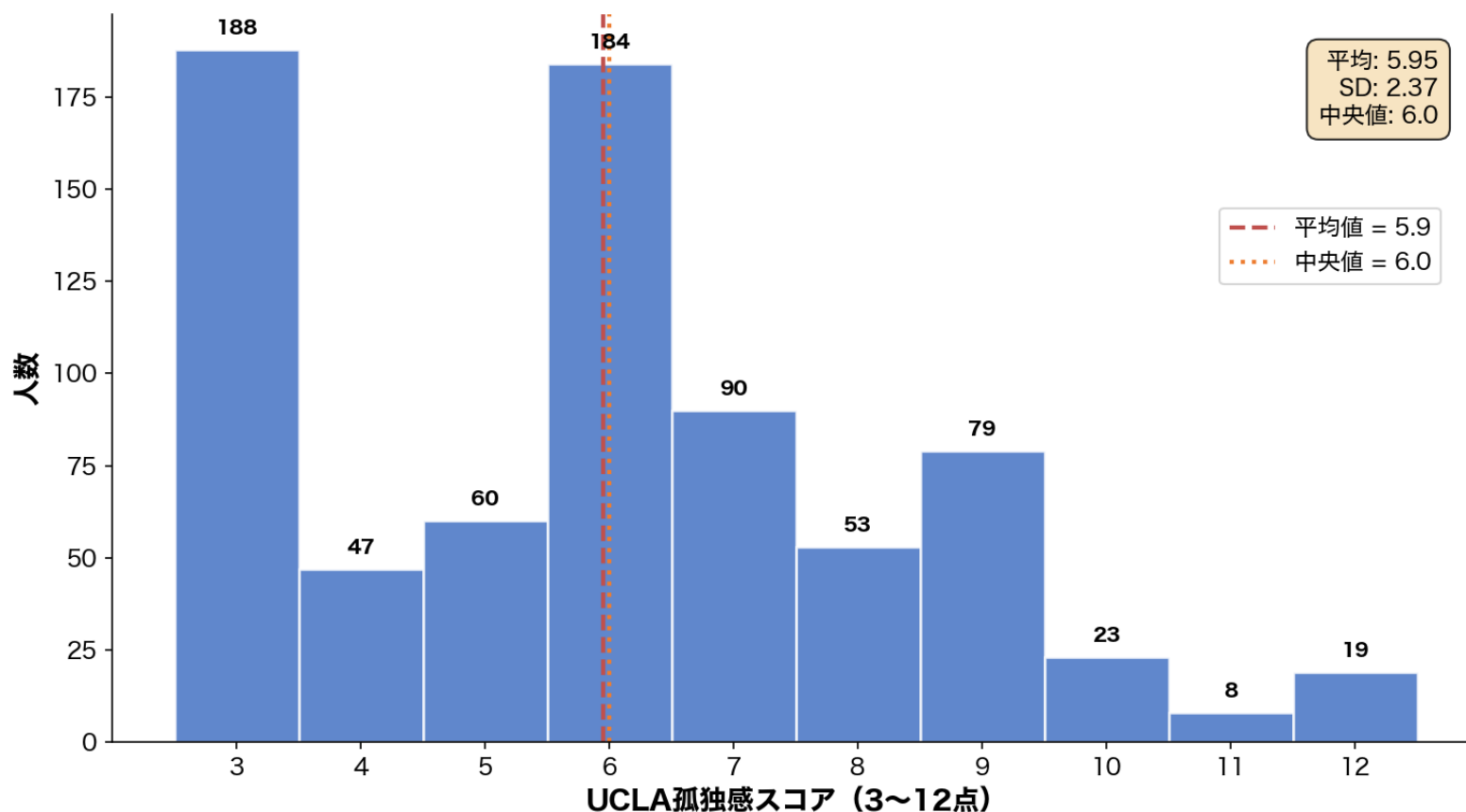
項目	内容
調査名称	高浜市「まぜこぜの居場所」実態調査 2025
調査方法	郵送によるオンライン回答（Questant利用）
調査対象	高浜市在住の小学校4年生～30歳未満（5,000人抽出） 10～18歳: 4,000人 / 19～29歳: 1,000人（14歳以下は親が代理回答）
有効回答	N = 760名
多言語対応	ベトナム語・ポルトガル語の翻訳版あり
基本属性	生年月日、性別、住所／小学校区、家族構成、学歴・職歴、家庭の経済状況、親の学歴
説明変数	居場所（種類・参加頻度・理由）、SC（信頼感・地域参加・助け合い）、家族関係、外出頻度、食事
目的変数（アウトカム）	孤独感（UCLA） 、生活満足度、協調的幸福感（IHS）、主観的幸福感、自己肯定感、レジリエンス



UCLA孤独感尺度の分布

- 全体平均 5.57 (SD=2.29)。最頻値は3点 (最低得点) で全体の27.0%を占める。
- 右に裾を引く分布であり、多くの保護者は低い孤独感を示すが、高得点者も一定数存在。

UCLA孤独感スコアの分布 (N=763)

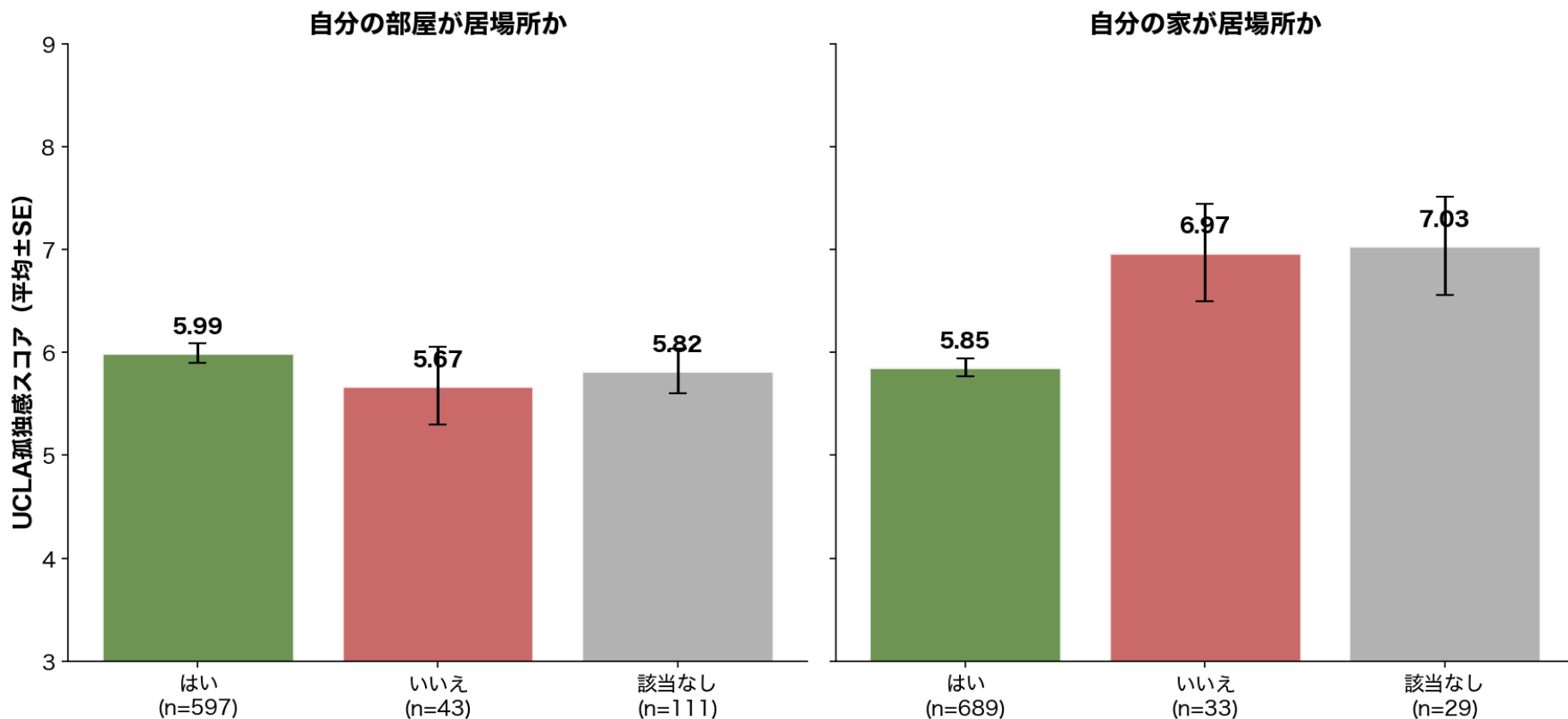


家庭の居場所（第一の居場所）と孤独感



- 自分の部屋が居場所及び自分の家が居場所回答しているほど、孤独感が低い傾向。
- 家庭内での居場所の有無が、孤独感と関連している可能性を示唆。

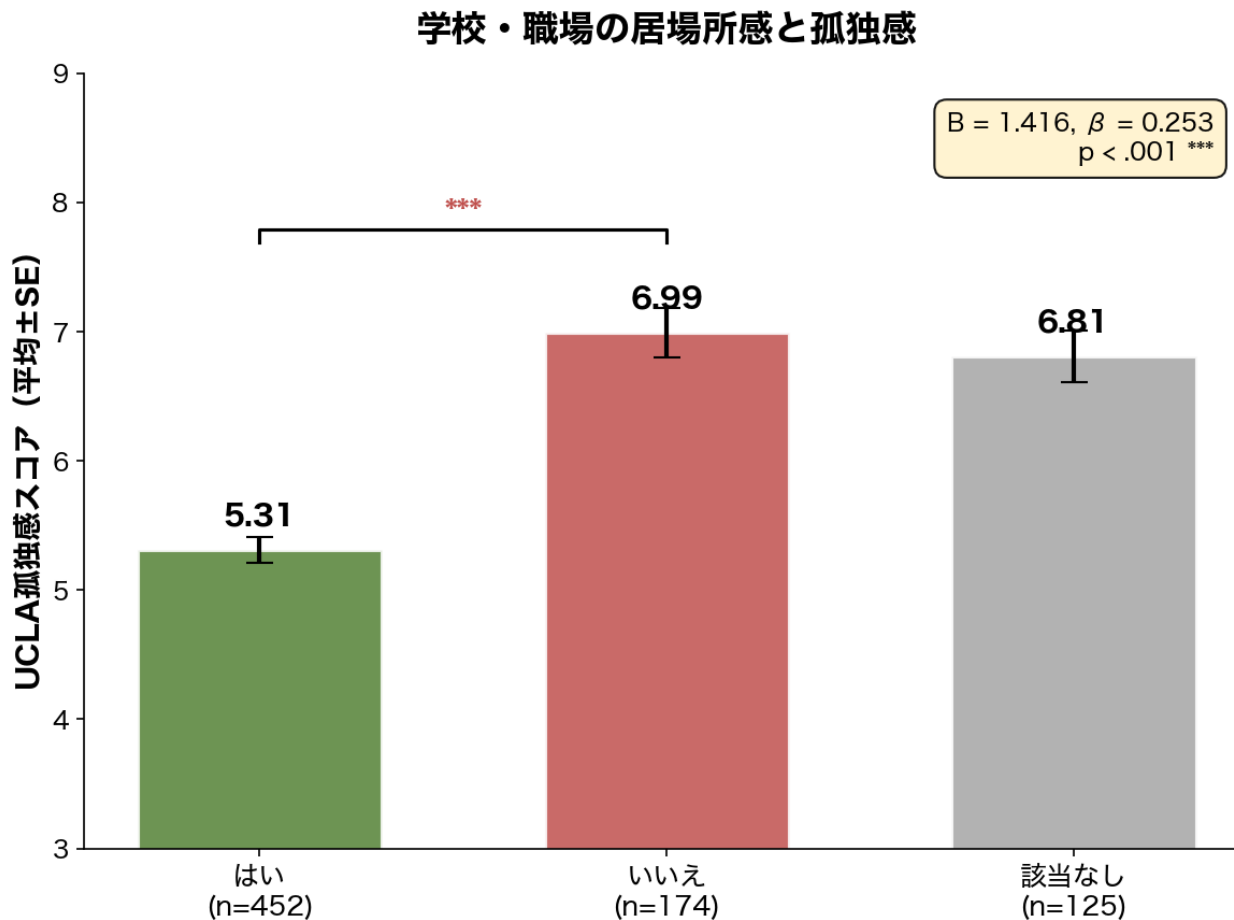
1st/2nd Place（自分の部屋・家）の居場所感と孤独感



学校・職場（第二の居場所）と孤独感



- 学校・職場における居場所の有無と、孤独感は関連がある。
- 学校・職場が居場所である（はい）と答えている者より、いいえと答えていると1.68点孤独感が高い。

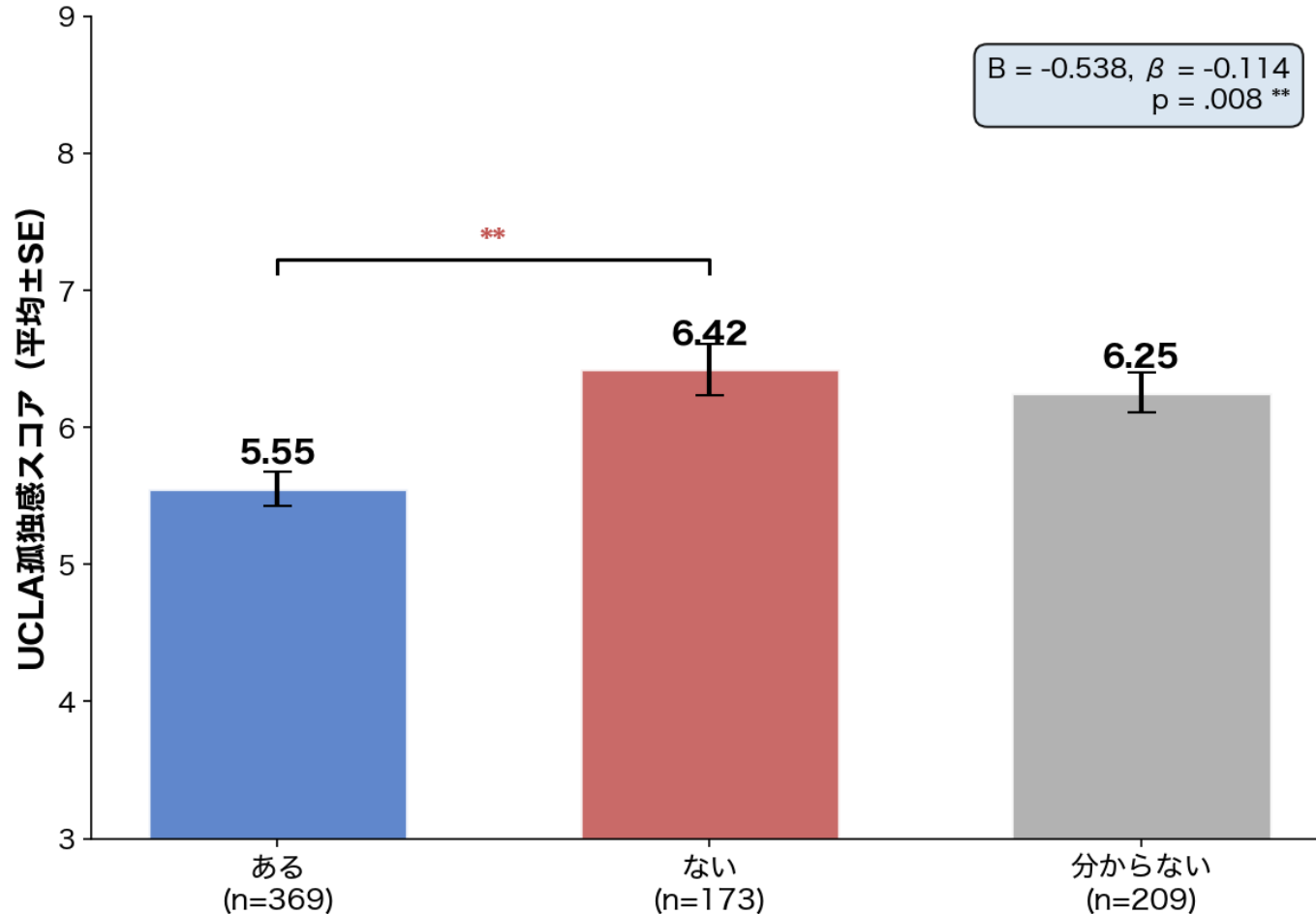


サードプレイス（第三の居場所）と孤独感



- サードプレイスあると回答していると、孤独感が約0.8ポイント低い。

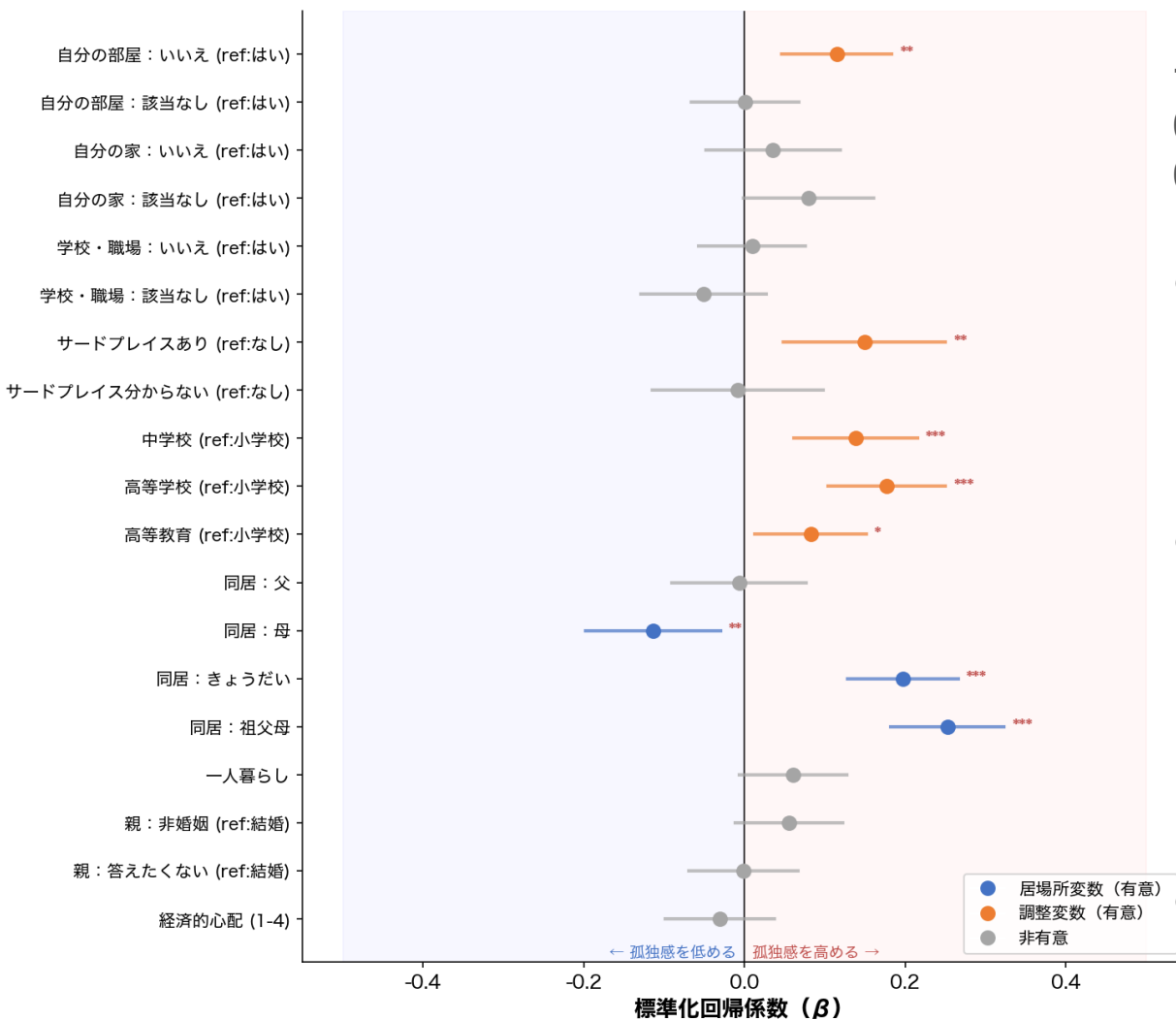
サードプレイス（第三の居場所）の有無と孤独感



様々な要因を同時に考慮しても関連がある



標準化回帰係数 (β) と95%信頼区間



- 分析Model 1 (基本調整変数のみ)

サードプレイス「ある」の $B = -0.78$ ($p < .001$)、調整済み $R^2 = 0.100$

- 分析Model 2 (居場所感Q10追加)。サードプレイス「ある」の $B = -0.36$ ($p = .06$)、調整済み $R^2 = 0.178$

- Model 2で居場所感を投入するとサードプレイスの効果が減少したことは、**効果の一部 (-0.78から-0.36に約54%減少)**が居場所感を媒介していることを示唆する。

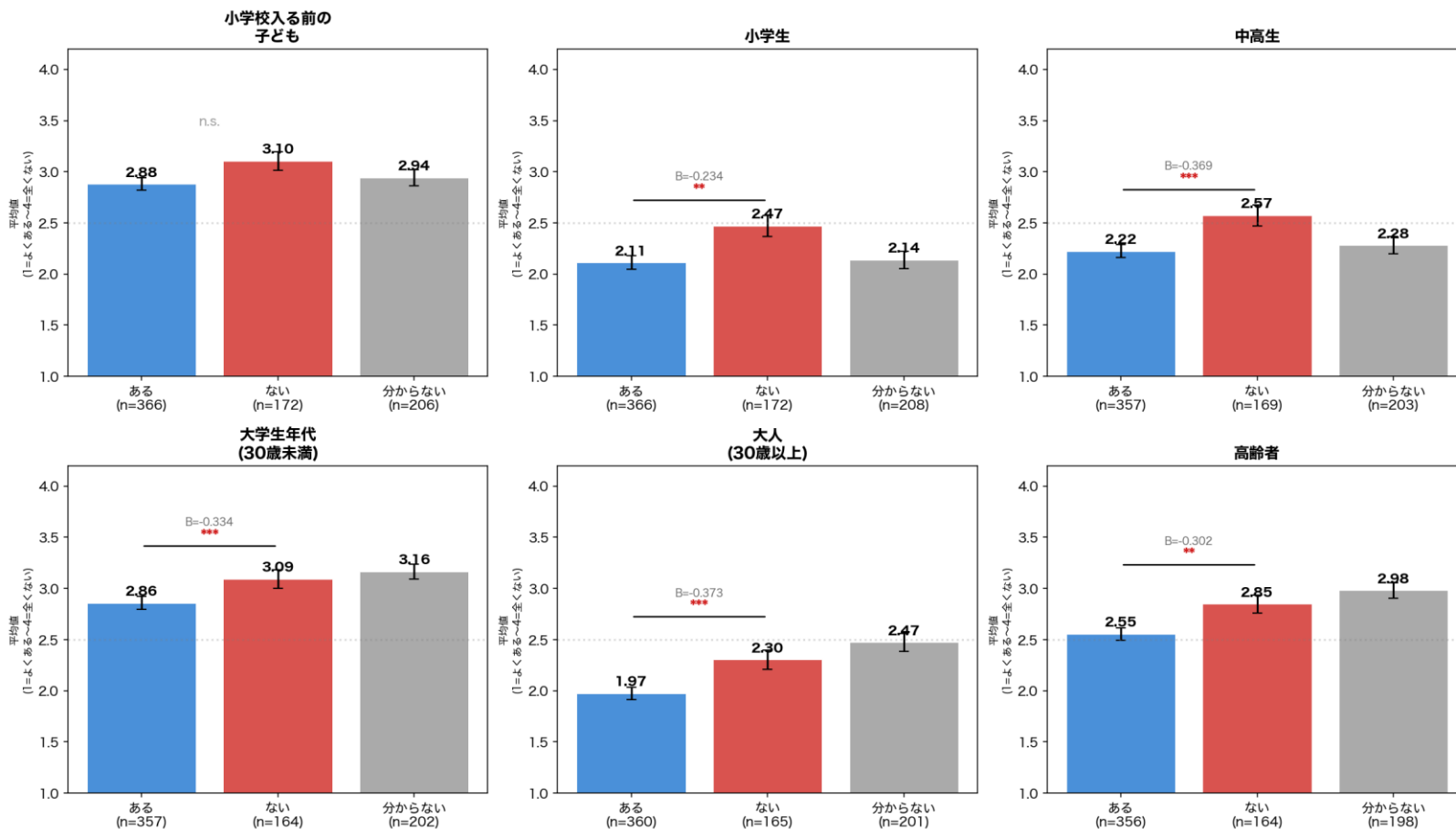
- 自己肯定感・友人接触・地域信頼が媒介経路として有力。

世代間交流と孤独感



- サードプレイスありの保護者は多世代（高齢者・小学生等）との交流頻度が高い。
- 地域の世代間交流がサードプレイスと孤独感を媒介する可能性。

サードプレイスの有無と多世代交流

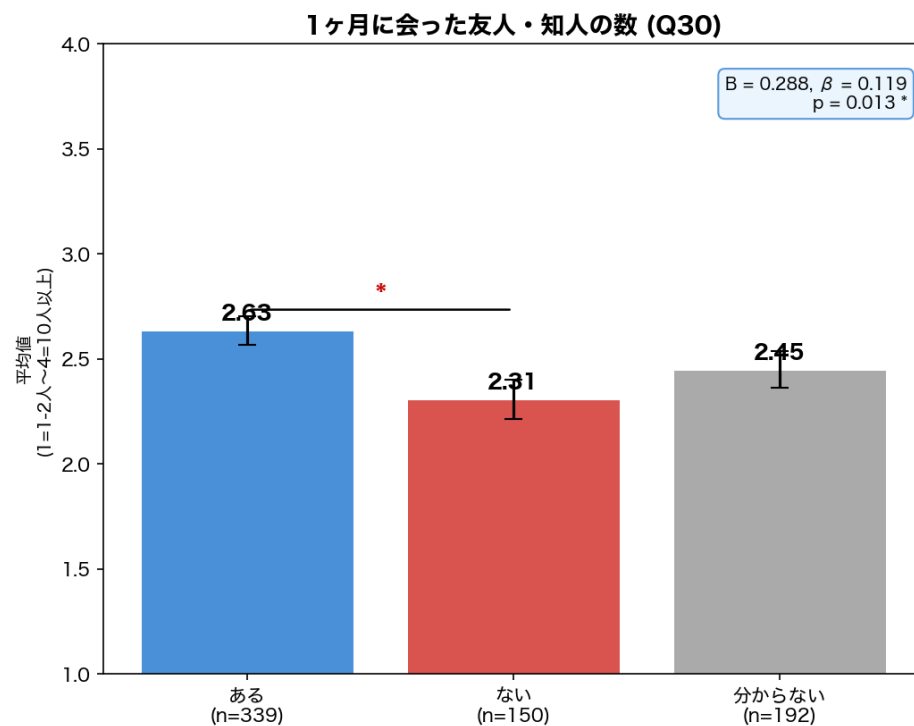
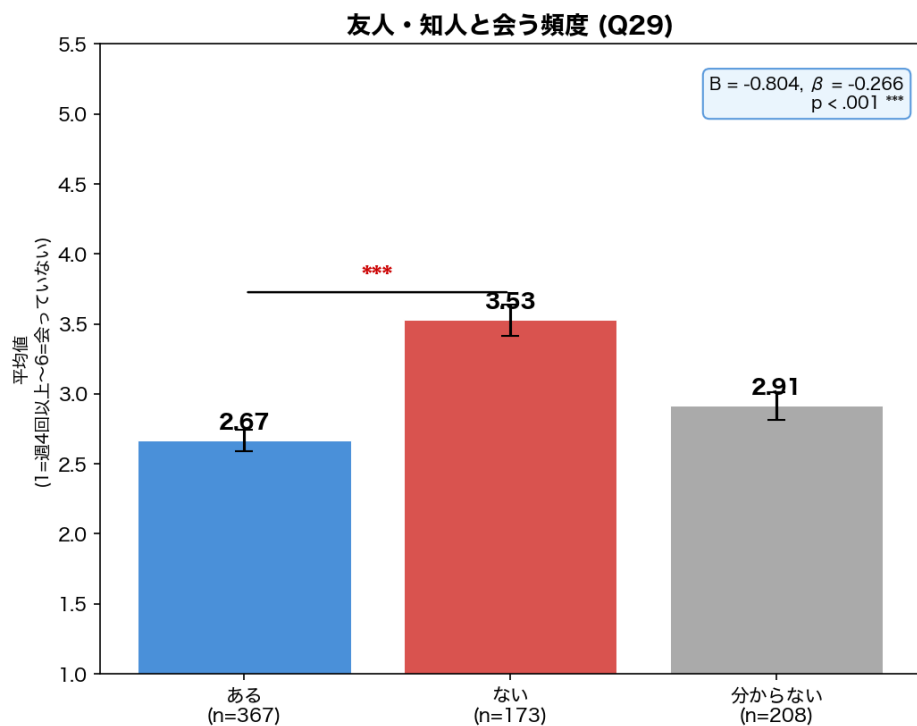


友人との接触頻度と孤独感



- サードプレイスあり群は友人との対面接触頻度・人数ともに多い
- 友人ネットワークの豊かさがサードプレイスの孤独感低減効果を媒介する

サードプレイスの有無と友人・知人との接触

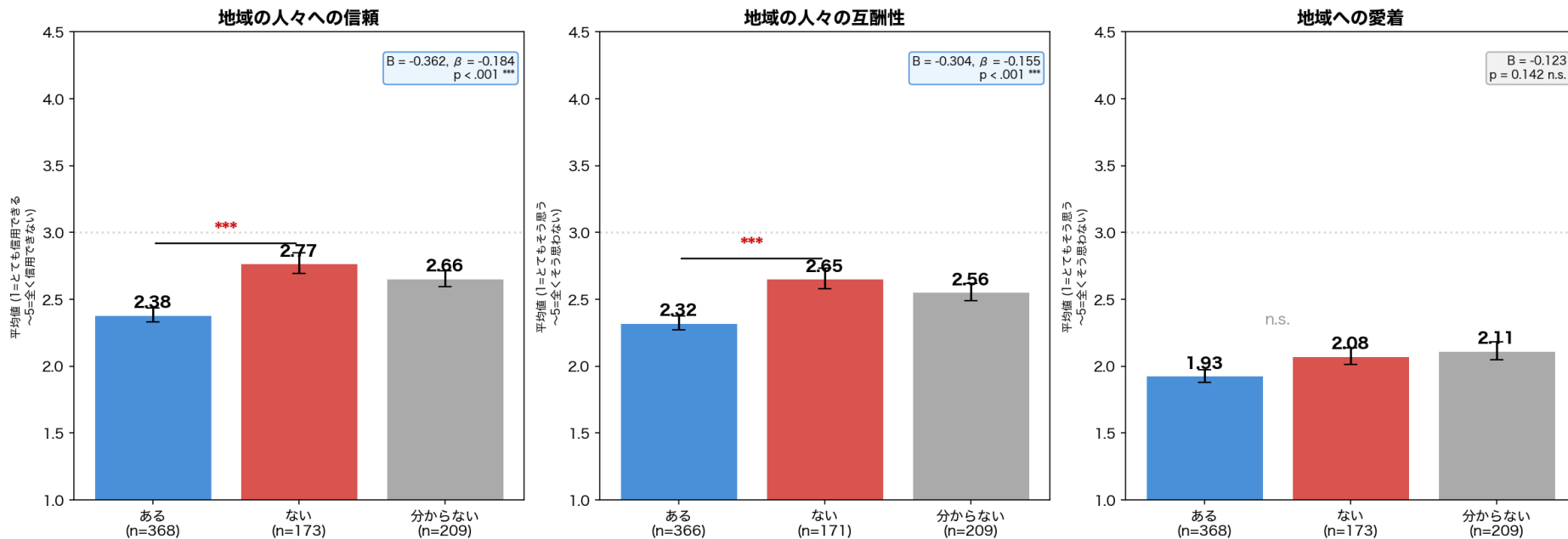


ソーシャルキャピタル関連指標と孤独感



- 地域の信頼感・互酬性（ソーシャルキャピタル）がサードプレイスあり群で高い
- サードプレイスが、地域の社会関係資本を醸成し、孤独感低減につながる可能性

サードプレイスの有無とソーシャルキャピタル



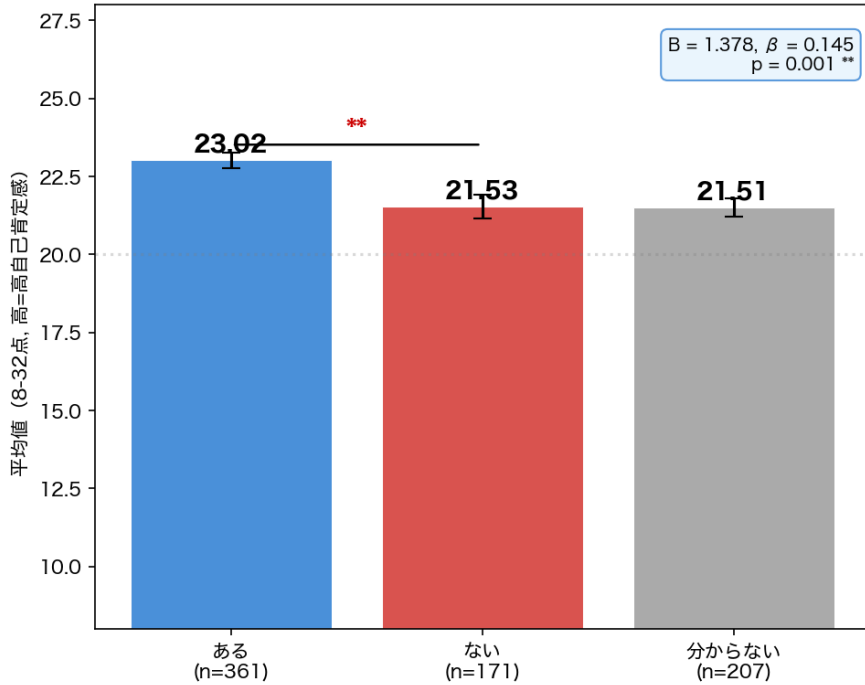
自己肯定感と孤独感



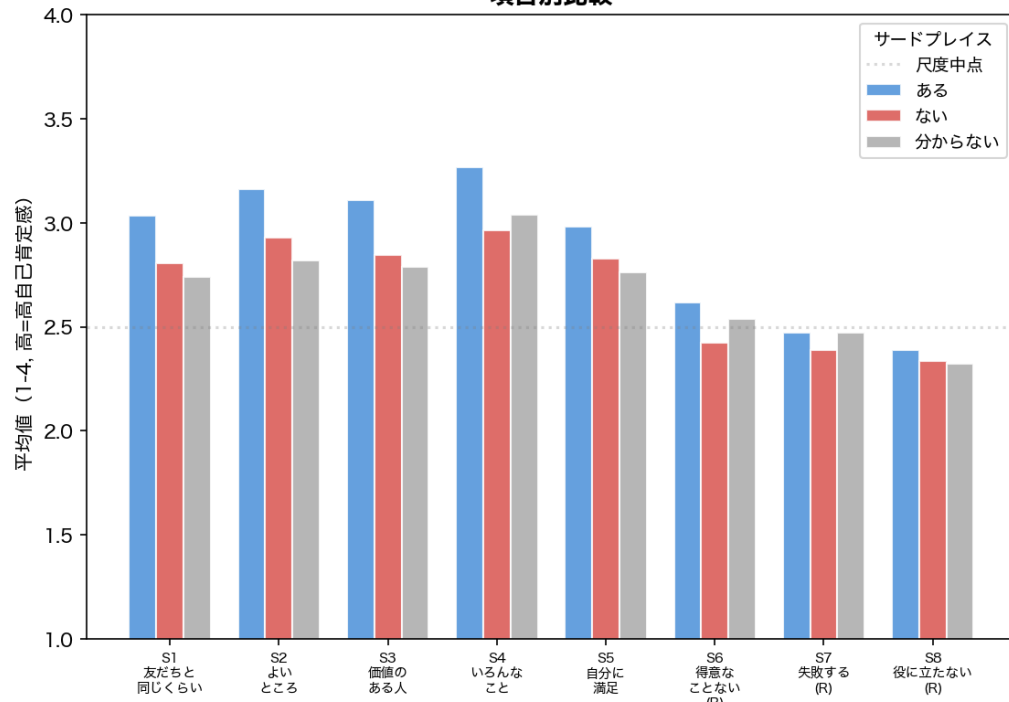
- サードプレイスあり群は自己肯定感（Rosenberg尺度、 $\alpha=0.858$ ）が有意に高い

サードプレイスの有無と自己肯定感

自己肯定感合計スコア



項目別比較



居場所→友人接触頻度・自己肯定感→孤独感



- 友人接触頻度と自己肯定感との関連が強い。

ブートストラップ媒介分析: 間接効果と95%信頼区間
(サードプレイス → 媒介変数 → UCLA孤独感)

